



2011年2月3日発行（通算第60号）

発行 福井 甫方 呑川の会

連絡先 〒146-0066 大田区雪谷3-15-14

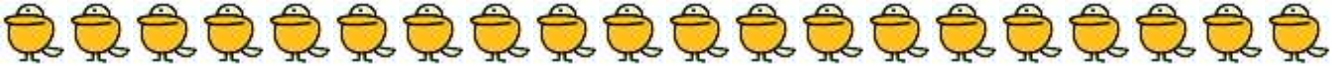
呑川の会 HP

<http://home.m00.itscom.net/nomigawa/> [第1]

<http://home.t07.itscom.net/nomigawa/> [第2]

高橋会員 HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>

の み が わ



改修後の生きものたち（その6 工事編）

舞い戻ったトンボやキンクロハジロ

（高橋 光夫 記）

前回、久が原・仲池上地域の改修工事（「八幡橋～仲之橋区間」その5・その7工事）が終わった後の生きものたちの様子をレポートしました。

巨大な「湧水孔プール」が出来、そこに出来た「静水域」を魚たちがさっそく利用していましたし、魚たちを狙ってカワセミも来ていました。



この場所に「落差工」があります。

その下流側に川幅いっぱいの大きな深みが形成されているからです。

この落差により小さな滝が出来、酸素も供給されます。

よく見ると、この落差の中央に白い鳥が見えています。

（写真：落差工）



近寄ってみるとコサギです。

この落差を上がってくる魚を待ち伏せし、盛んに食べています。

改修後も魚たちがやってきている証拠です。

（写真：落差工の上で魚を待ち伏せるコサギ）



さて今回は、「道々橋」上流側(「その6工事」久が原・仲池上地域)の改修工事を見てみましょう。
改修前は自然河床で「オオカナダモ」が繁殖して、いかにも自然な環境が維持されていました。
また深みのあるこの場所に、キンクロハジロもよく来ていました。

(写真:改修工事前の情況。)



改修工事後の道々橋上流は、コンクリート3面張りになり、自然河床は無くなりました。

生きものたちにとって、とても厳しい環境になりました。
しかし「大きな湧水孔プール」はここにも作られ、自然環境に配慮した結果が、どのように現れるかが注目です。

(写真:その6工事完了後の道々橋上流)



両岸には植栽帯が設けられ、ツルヨシなどが植えられました。

また時間が経つにつれ、植栽ネットなどには藻類も生え、カルガモが早速やってきています。

(写真:両岸に植栽帯)



植栽された「オオカナダモ」も、ドンドン増え、ホテイアオイもいつの間にか生えてきました。

水深が浅く、流れが速いところでは水草が育ちにくいのですが、この区間は水深もあり、水が緩やかに流れていることが良かったのかもしれません。

(写真:成長したオオカナダモ)



なんと「ギンヤンマ」のペアがやって来ました。

「オオカナダモ」がたくさん生えているため、とても魅力ある産卵場所になったのです。

(写真:ギンヤンマの産卵行動)



両岸の植栽帯に植えられている植物に、「シオカラトンボ」が止まって、自分のテリトリーを監視しています。

水辺に植物が植わっていることは、いろいろな生きものをはぐくむ基礎となります。

(写真:シオカラトンボのオス)



そしてうれしいことに、改修工事の前にここによくいた「キンクロハジロ」も戻ってきたのです。

「キンクロハジロ」は、潜ってエサをとる「潜水ガモ」なので、この場所に一定の水深が形成されたことが重要なポイントになったのでしょうか。

ただこのすぐ上流側がまだ未改修区間のため、そこにいた「キンクロハジロ」が遊びに来ただけかもしれません。

(写真:キンクロハジロの群れ)

今年はこの上流～新幹線までの工事も始まります。一連の工事が終わった後、生きものたちにどういう影響が出るか、注意深く見つめていきたいと思います。

生産緑地その後

久が原・東雪谷地区

(福井 甫 記)

前号で久が原地区にある元中島さん所有の生産緑地にマンション建設計画が浮上している旨、報告しました。その後呑川ネットとして11月4日大田区へ親水公園化、最低洗い場の保全を、また翌5日建設主の明和地所(株)に最低洗い場の保全を要請しています。

その要請もあり、現在(1月20日)建築主の明和地所(株)ではまず現状の湧水状況を調査し、その状況を踏まえて、モニュメント作成あるいは洗い場跡の標識等の設置等対応を検討するという

ことです。

生産緑地は勿論 生産緑地法(昭和 49 年 6 月)に基づくもので、大田区には 2010 年 12 月現在 16 箇所約 2.37ha の生産緑地があります。分布は中馬込 5 箇所、西馬込 2 箇所、南馬込 2 箇所、下丸子 3 箇所等です。その中で最大のものが東雪谷の呑川と新幹線が交差するところにあるもので約 0.46ha あります。現在サツマイモなどが植えられ、保育園の園児が芋ほり体験をできる貴重な場にもなっています。

生産緑地は農地が都市空間の中にあることにより良好な都市環境が形成されるという法の主旨



からも農地として存続されることが望ましく、法も市区町村がサポートするよう義務付けています。しかし一般的には農地として存続させることが困難な場合が発生することはいまでもありません。東雪谷の生産緑地は約 0.46ha つまり約 4,600 m²ですが、これを時価で換算すると 20 億円前後でしょうか。20 億円という金額は所有者にとっても、また一次の買取権利のある大田区にとっても小さい金額ではないでしょう。とすると所有者は開発業者に売らざるを得ず、生産緑地のあとにマンションが建つことも充分にありえます。このような問題は大田区

(写真 東雪谷生産緑地 手前は大根)

16 箇所の生産緑地すべてにあります。

そこで呑川ネットとして 11 月 18 日の大田区との意見交換会席上、生産緑地全般に対しつぎの要請をしました。

買取後の生産緑地の活用方法の総括責任箇所の確認

具体的なプラン案の作成

年 1 回具体的なプラン案の見直し

私たちも十分に意見を出し合って建設的な提案ができればと思います。

大田区との意見交換会のまとめ

11 月 18 日

(福井 甫 記)

今年度下期の大田区との意見交換会 11 月 18 日行われました。出席者は区から杉村都市基盤管理課長、近藤環境保全課長以下、都市基盤管理課、環境保全課、および蒲田、大森、調布の各まちなみ維持課課員等 10 名、呑川ネットは岡代表以下 9 名、それに奈須りえ議員、大森昭彦議員 全体で 22 名

主な議事内容は次の通りです。

今年度の呑川関連施策の実施状況(11 月 15 日現在)報告呑川緑道の整備として透水性舗装、およびヒートアイランド対策としての遮熱防止舗装を 南雪谷 5 丁目地先 140m、中央 8 丁目地先 90m、池上 2 丁目地先 160m で実施(発注を含む)

雨水貯留槽設置助成 申請 55 件、設置完了 30 件

2) 前回提案内容に対する区からの回答

「環境カルテ」の大田区版の作成と区 HP への掲載の要請に対して

大田区では「環境カルテ」と同様に地図上に情報を表示し、視覚的にわかりやすく表現し、情報の複合的な活用をはかる「GIS システム(主管課 情報システム課)」を構築している。「環境カルテ」はその中で取り入れられないか検討を進めたい。ただ費用対効果、情報ライセンス等クリアしなければならない問題も多い。

呑川・大田区の古い写真の提供の区報での呼びかけの要請に対して

要請内容に誤解があり、改めて呑川を含む大田区の古い写真の喪失は非常に残念なことであり、郷土博物館等が中心となり、広く区民の呼びかけ、大田区の古い写真の収集・整理・保管・活用を要望した。

3) 今回の説明要請事項に対して

「呑川水質改善計画」の詳細に対して

主な内容は次の通り

今年度の予算額 7,245 万円

(株)建設技術研究所が全体のまとめ役と。水質汚濁のメカニズムは、東京工業大学大学院理工学研究科(主として化学)の鈴木正昭研究室に依頼し、研究中。試作機の製作は、今年度中に大田区の(株)荏原製作所、(株)巴商会に依頼予定。

来年度は試作機を設置し、改善効果の調査、およびその結果による水質浄化システムの規模、配置等の検討をする

現在の屋形舟型曝気装置は開発中の水質浄化システム稼動後の改善状況を確認の上、撤去の方向で検討する。

4) 呑川ネットからの新たな要請事項

正式な回答は後日とし、当日は次の要請内容の説明に留めた。

上池台・小池公園からの流出水を洗足流れに導入

呑川での枯れている蔦の植え替え

生産緑地に対する要望

- a. 元・久が原2丁目生産緑地の親水公園化、特に歴史的遺産として同生産緑地内にある野菜の洗い場の保全
- b. その他生産緑地全般に対し、生産緑地は区内の貴重な大規模緑地であり、原則そのまま維持するようにつとめるとともに、万一手放さざるを得ない場合に備えて、事前に生産緑地法第11条による買取請求ができた場合に備えて事前に買取体制を整備することを要請

冬の呑川沿岸(工大橋～河口)の樹木

第10回 「蔦(つた)」

(可児 昭雄 記)

木々の葉もすっかり落ち、コンクリート三面張りの呑川がますます寒々とした様を見せるシーズンまっただ中である。

この景色を和らげているのが、石川台中学の脇「一本橋」～「島本橋」、池上「霊山橋」より見る下流の壁面を覆っている「蔦(つた)」である。

この「つた」は「ヘデラ・カナリエンス」で冬も落葉せず、和名「きづた」と呼ばれている。呑川沿岸の緑化を東京都が昨年から進めて、現在「谷中橋」～新幹線まで桜の木と共に植えられている。



そして、「工大橋」下流左岸の壁面を、自然に「なつづた」が覆っている。この「なつづた」は、秋に紅葉し冬に落葉する甲子園球場の「つた」で有名である。

今後、これらの「つた」が壁面を順調に育つことを望んでいる。

***きづた（ヘデラ・カナリエンス）**

- ・ウゴキ科
- ・常緑性

***なつづた**

- ・ブドウ科
- ・落葉性

（写真：池上・養源寺前）

大田区サイン整備計画スタート

呑川沿いの案内が充実します

（高橋 光夫 記）

大田区では、区内の魅力をアピールする「サイン計画」として、「桜のプロムナード」と共に、「呑川」を先行して充実させるという、うれしい計画を進めています。

（桜のプロムナード）「洗足池」「洗足流れ」「内川（馬込の源流部～大森の河口）」が中心です。

（呑川緑道）サインで伝えるべきテーマは、こんなことが概略考えられています。

- （石川町）・・・「清流・石川」と共生する農耕生活の歴史。
- （雪が谷）・・・谷戸の開拓や川や湧水を利用した生活史。
- （久が原・仲池上）・・・台地の遺跡や分水路の変遷。
- （池上）・・・歴史的景観や門前町回遊ルート。
- （西蒲田）・・・六郷用水との関連性。
- （蒲田）・・・都市化と江戸文化との共生。
- （東蒲田・北糀谷）・・・流路の付替えや海運施設の歴史。
- （森ヶ崎・東糀谷）・・・近海漁の歴史など。

サインが充実し、市民のみんなが「呑川」をこういう視点で見つめ直し、理解を深めるようになれば、郷土愛も深まり、河川環境の改善にもつながると思います。私も、「生きもの」関連の資料を提供させていただきました。

実際にサインが完成するのは、予算の関連もあり、数年かかるそうです。楽しみですね。

善福寺川ウォーキング

最新親水公園視察

(折戸 清 記)

11月6日(土)に白石会員の案内で善福寺川のウォーキングをした。当日はさわやかな秋晴れに恵まれ10名が参加し、コースは下記の通りで約7キロを歩いた。

JR 荻窪駅 大田黒公園 春日橋(これより川沿いを歩く) 神通橋(ここから善福寺川緑地が続く) 尾崎橋(五日市街道を横断) 善福寺川緑地内で昼食 白山前橋(続いて和田堀公園に入る) 和田堀池 八幡橋(大宮八幡宮へ立寄り) 宮下橋(たもとに増水時調節池) 郷土博物館前の調節池 済美橋(荒玉水道道路を横断) 済美公園(武蔵野橋を渡った所にある親水公園) 熊野橋(ここから和田堀橋まで河川拡幅工事中) 和田堀橋(環七通りに架かる橋、手前左岸に環七地下調節池への取水施設) 地下鉄方南町駅

10時に荻窪駅南口を出発し、先ず大田黒公園に立ち寄ってから善福寺川の春日橋へ出た。この公園は音楽評論家の大田黒氏の屋敷跡で、広大な敷地には銀杏並木を始め巨木がうっそうと茂り、氏の仕事部屋であった西洋建築の記念館がある。

春日橋からは川沿いを歩いた。川はコンクリートの垂直護岸で、川幅を広げたので川底に昔の狭い流れの跡が残っている。川の水は澄んでいて綺麗であった。神通橋からは善福寺川緑地が続き、緑が濃い樹林の中で蛇行を繰り返す川沿いを森林浴気分で歩く。護岸の



あちこちからは思いのほか多量の湧き水が川へ注いでいた。また川が増水したとき魚が流されないように一時的に身を隠す「魚巢」も多く設置されていた。更にいくつかの橋のたもとには、源流からの里程標のほか川の案内掲示板が設置されており、魚巢の仕組みや現在は細長い緑道公園になっている昔の用水跡などが説明されていた。なお川沿いに設けられた柵も細目の金属パイプ製なので川面を眺めながら歩けた

のも良かった。尾崎橋で五日市街道を横断したが、付近のコンビニで昼食の弁当を買い善福寺川緑地内で昼食をとった。

白山前橋で善福寺川緑地は終るが、続いて和田堀公園の樹林がさらに続いていた。左岸に以前は善福寺川の氾濫原だった個所に和田堀池がありカワセミがよく見られるという。当日はこの池より少し上流で美しいコバルト色のカワセミを見ることができた。川沿いを少し歩いて八幡橋を渡り崖道を登って大宮八幡宮へ立ち寄った。鬱蒼とした森の中に建つ神社は武蔵国3大宮の一つの右社で、丁度七五三の参拝客で賑わっていた。川沿いの道へ戻り、宮下橋の左岸のたもとには増水時に川の水を一時的に貯める調節池があり、通常時は野球場として利用されている。更に少し歩いた右岸に杉並区の郷土博物館があるが、この前にも調節池があり通常時は壁打ちテニス場として利用されている。

済美橋で荒玉水道道路を横断し、少し歩いて武蔵野橋を渡った川の右岸にある当日の



見所の一つである「済美公園」を観察する。この公園は「最新の親水公園」で、まだ整備は完了していないが、呑川の会でも度々話題になった川の水に近付ける公園となっている。近隣住民と都が協議して整備された親水公園で、ワンド部とテラス部の2箇所が川に面して整備中である。武蔵野橋も橋の親柱と欄干に蓮の花のデザインが施された新設の橋である。整備が完了したら再度訪れたいと思った。

この公園のすぐ下流の熊野橋から和田堀橋までは川の護岸の拡幅工事中で、川沿いには歩けなかったが、途中の橋の上から工事の様子を観察した。環七道路に架かる和田堀橋の手前左岸には、増水時に善福寺川の水を環七通り地下に設けられた地下調節池に一時貯流するための取水施設がある。この調節池は神田川の方南橋から善福寺川の和田堀橋を経て妙正寺川の新昭栄橋まで内径 2.5m、4.5 kmの長大なトンネルになっている。和田堀橋から少し南へ歩いて予定通り 15 時頃地下鉄方南町駅に到着した。

今回のウォーキングでは全長 4.2 キロに及ぶ川沿いに整備された善福寺川緑地と和田堀公園の背の高い樹林に囲まれた濃い緑の中の散策が一番素晴らしかった。なお平成 17 年に杉並区で異常な集中豪雨があり、善福寺川流域で大きな水害が発生したためか、少し意外であったが水害対策の様子もあちこちで観察した。川沿いを歩いていると大きな雨水吐きがたくさん護岸に設けられている。川の拡幅工事も進められていたし、各所に増水した川の水を一時的に貯留する調節池も見られた。また増水時に付近住民に警報するスピーカーも設置されていた。

六郷用水完成 400 年シンポジウム開催

2 月 13 日 (日) 午前 11 時 ~ 午後 3 時 30 分

~ 嶺町特別出張所 ~

「歴史遺産を未来遺産へ」

(菱沼 公平 記)

六郷用水は、徳川家康が小泉時次太夫に開削を命じ 14 年の歳月をかけ完成したものである。徳川家康は小田原の北条氏滅亡の天正 18 (1690) 年、東北の守りを固めるという事で豊臣秀吉の命により関東に国替えさせられた。以来将来を考え、江戸の城下町の整備 (埋立、運河に開削、上水の確保など) 領内を豊かにする水田開発に取り組んだ。その一つに六郷領 (現在の大田区) に灌漑用の水を送るのが六郷用水です。

六郷用水は多摩川を挟んだ川崎側の二ヶ領用水 (川崎・稲毛領) と同時期に開削された。まだ関ガ原の戦いが起こる前の慶長 2 (1597) 年に測量を開始し、慶長 16 (1611) 年 3 月に完成したと言われている。

川崎市は多摩川に沿った細長い市でもあり、二ヶ領用水が川崎市の大工場の工業用水に使われた事もあり農業用水より長く使用されたという事で、多くの流れが周辺住民の運動と、行政の努力により現在も残されている。川崎側では 14 年前、「二ヶ領用水開削開始 400 年」の記念行事が行われており、今年も「完成 400 年」の記念行事が行われる。

大田区側では 14 年前には何も行われず、おそらく今年も何も無く終わっていたかもしれない。しかし一昨年の 5 月に始まった大田区民大学の「六郷用水かたりべ養成講座」に参加した有志が「六郷用水の会」を立ち上げ、この「歴史遺産でもあり、文化遺産でもある」六郷用水の普及に取り組んできた。そこで「六郷用水の会」は、この六郷用水完成 400 年の記念行事を何としても成功させたいと思い、いろいろな方面に働きかけ、「完成 400 年」記念のシンポジウムを計画した。その中で、六郷用水の会と嶺町地区自治会連合会との共催でシンポジウムを開催することを決定した。後援には大田区・大田観光協会、協力は、大田郷土博物館・水路の会・おおたく環境探検隊である。

【シンポジウム】の内容

第一部 11 時～12 時 嶺町小学校 4 年生による地域学習成果発表

『未来の六郷用水』

第二部 13 時～14 時 基調講演

『六郷用水 また 川のこと』 講師 宮村 忠（関東学院大学名誉教授）

第三部 14 時 20 分～ 『語り部セッション』

代田川緑道保存の会・嶺町地区自治会連合会の皆様

同時開催・周辺行事

復元水路ウォーク 10 時 30 分～12 時 多摩川駅～会場

新旧対比写真展 せせらぎ公園管理棟（9：00～16.30）【協力：観光課】

復元水路写真展～六郷用水今昔物語

六郷用水散策路に六カ所設置【協力：調布まちなみ維持課】

多くの方の参加を期待しています。

残堀川・根川緑道お花見ウォーキング

4月2日（土） 西立川～西国立

（白石 瑠朗 記）

*集合日時：4月2日（土）10時・JR立川駅改札口（南くるりんバス乗車）

*解散：15時・JR南武線「西国立駅」

*会費：500円

*散策順路：約6.5キロ

*雨天時：朝のみの雨・途中からの小雨は歩きます。連絡：白石 090-6044 7275

南くるりんバス・女性総合センターバス停 西立川バス停 浅間神社 残堀川
奥多摩街道 JR中央線 普濟寺 根川緑道入口 多摩モノレール
甲州街道 立川公園（昼食・WC） 根川貝殻板橋 甲州街道 矢川緑地
南武線 JR南武線西国立駅

残堀川と根川緑道の川沿いの道は見事な桜並木のトンネルです。

残堀川は元々狭山丘陵の小河川の水を集めて南東に流れ、矢川に注いでいました。昔から大雨の度に氾濫する「暴れ川」で洪水の度に大量の土砂を流域に堆積させ、砂

川の地名の由来となった。昭和 57 年氾濫対策として流域整備がなされ、ローム層を流れていた河道を掘り下げたため、礫層に伏流しやすくなり、頻繁に水流の見られない「瀬切れ」を起こす川になってしまった。

根川緑道は平成 4 年～8 年にかけて整備が進められ、高度処理水を活用した日に 2700 トンの湧水がせせらぎとなって流れて、1.3 キロの桜並木が続きます。

「呑川の会」定例会のお知らせ



「呑川の会」の定例会を次の通り開催致しますので、多数の会員の皆様の出席をお願い致します。

*日 時： 2月19日(土) 14時～17時

*場 所： 蒲田小学校（蒲田駅東口徒歩5分・呑川御成橋すぐ）
図書室

*内 容： 呑川サイン計画、第3回呑川シンポジウム実施検討、おーちゃんネット、大田みどりの基本計画、生産緑地、エコフェスタ等、他

呑川ネット定例会のお知らせ（呑川流域ネットワーク連絡協議会）

2月8日(火) 10時～12時、会場：蒲田・生活センター2階

エコフェスタワンダーランドに出展

2月20日(日) 10時～15時30分

於いて：矢口西小学校（下丸子1-7-1）

東急多摩川線、下丸子駅・武蔵新田駅 徒歩5分

テーマ：「呑川の昔と今」写真展示、アリゲーターガーDVD 上映他

< 編集後記 >

大田区の中心を流れる我が呑川は、大田区の最大のシンボルの一つであり、この川をどう生かして利用するかによって、区民に大きな影響が出ます。最近になって水環境・緑道整備を大田区が行いつつあり、呑川散策に多くの人を呼び込むための、種々の案内板（サイン）の設置等について、呑川の会に相談が来ています。いい呑川沿線の散策路を築くために、会合に出て意見を述べたり、メールで知らせたりして、発展的な呑川の会に皆でしましょう。呑川が都民・区民の人々に素晴らしい憩の場・散策の場として集える川となるよう望んでいます。（編集担当：白石 琇朗）